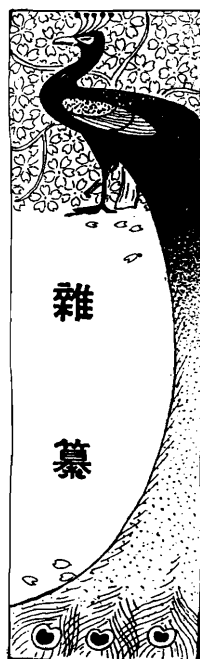


Title	青森縣産鳥類目録
Author(s)	和田, 干藏
Citation	鳥. 3(12/13), 1922, p.120-133
Issue Date	1922-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10129/2185">http://hdl.handle.net/10129/2185</a>
Rights	日本鳥学会, 本文データは学協会の許諾に基づき複製したものである
Text version	publ isher



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>



青森縣産鳥類目錄

和田 干藏

青森縣産鳥類目錄 (紙面の都合上學名を用ゐず)

青森縣は我本州の最北端に位し極南北緯四〇度二分より極北北緯四一度三分、極西東徑一三九度五四分より極東東徑一四一度三分に跨る海陸兩界を包含せし所にして、陸界は山嶽、原野、湖沼に富み、水界は三面海を以て抱擁せられ、且附近を流るる暖流及び寒流あるを以て氣候寒冷なりと雖も諸種の生物の蕃息に適し其等の分布極めて豊富なり。今青森縣に産する鳥類の概要を示して讀者の參考に資せむとす。

科名	和名	津輕地方	南部地方	備考
阿比科 鷹屬科	アシシロアビ	センスガモ	センスガモ	カモ類と誤認して狩獵せらるること多し。
	オホハム	センスガモ	センスガモ	同上
	カイツブリ	ドンクグリ、 <sup>テ</sup> フミ、ムグリ、イイミ	ケヤツブリ、ムグリ	當地にて盛に繁殖す。
	カムムリカイツブリ	ドンクグリ	ムグリ	餘り多からず。
	アカエリカイツブリ	ドンクグリ	ムグリ	同上
	ハシロカイツブリ	ドンクグリ、マメ	ムグリ	同上
	ミミカイツブリ	ドンクグリ、ムグリ	カイツブリ	同上







秧		雞	
科		科	
カウライキジ(?)	キジ	カウライキジ(?)	キジ
ヤマドリ	ヤマドリ	ヤマドリ	ヤマドリ
(ヤマドリ白變)	ウヅラ	(ヤマドリ白變)	ウヅラ
ウヅラ	ウヅラ	ウヅラ	ウヅラ
ヒメクヒナ	グヒナ	ヒメクヒナ	グヒナ
クヒナ	カンカン	クヒナ	カンカン
ヒクヒナ	ナマスハタキ、カ ンカン、ヤチゲト	ヒクヒナ	ナマスハタキ、カ ンカン、ヤチゲト
ロイゲイ	バン、メキ、 ナカン	ロイゲイ	バン、メキ、 ナカン
バン	バン、コモザリ、 ナカン	バン	バン、コモザリ、 ナカン
オホバン	バン	オホバン	バン
メダイチドリ	カハラシゲ、シゲ	メダイチドリ	カハラシゲ、シゲ
シロチドリ	シゲ、カハラシゲ、 チドリ	シロチドリ	シゲ、カハラシゲ、 チドリ
イカルチドリ	シゲ	イカルチドリ	シゲ
コチドリ	シゲチドリ	コチドリ	シゲチドリ
ケリ	カササギ	ケリ	カササギ
タゲリ	シゲ	タゲリ	シゲ
ダイセン	シゲ	ダイセン	シゲ
ミヤコドリ	シゲ	ミヤコドリ	シゲ
アチアシギ	シゲ	アチアシギ	シゲ
ヘラシギ	ヘラ	ヘラシギ	ヘラ
ホウロクシギ	ダイジャク	ホウロクシギ	ダイジャク
チバシギ	シゲ	チバシギ	シゲ

朝鮮雞	キジ	朝鮮雞	キジ
キジ、ヤマドリ	ヤマドリ	キジ、ヤマドリ	ヤマドリ
シロゲラ	ウヅラ	シロゲラ	ウヅラ
ウヅラ	ウヅラ	ウヅラ	ウヅラ
ヤチゲトリ	グヒナ	ヤチゲトリ	グヒナ
ナマスハタキ、カ ンカン、ヤチゲト	カンカン	ナマスハタキ、カ ンカン、ヤチゲト	カンカン
バン、メキ、 ナカン	バン、メキ、 ナカン	バン、メキ、 ナカン	バン、メキ、 ナカン
バン	バン	バン	バン
カハラシゲ、シゲ	ハマチドリ	カハラシゲ、シゲ	ハマチドリ
シゲ、カハラシゲ、 チドリ	チドリ	シゲ、カハラシゲ、 チドリ	チドリ
シゲ	ハマチドリ	シゲ	ハマチドリ
シゲチドリ	ハマチドリ	シゲチドリ	ハマチドリ
カササギ	カササギ	カササギ	カササギ
シゲ	シゲ	シゲ	シゲ
シゲ	シゲ	シゲ	シゲ
ヘラ	シゲ	ヘラ	シゲ
ダイジャク	ダイジャク	ダイジャク	ダイジャク
シゲ	シゲ	シゲ	シゲ

朝鮮のカウライキジに極て類似す。(雄の變種  
ならん)

キジに比して分布極めて少し。

此種にて純白なるを今年入手せり。

原野多き諸所にて旺に繁殖す。

極めて稀なり。

極めて多く分布す。

極めて多く分布す。水田稻株間に營巢するが  
故に小兒等のため卵を捕はるること多し。

可成多く分布し、青森附近にては浦町驛の池  
沼内に營巢す。

十月下旬乃至十一月月上旬上北郡小河原沼には  
無慮一千以上の大群を成す實に壯觀を極む。

早春より來り當地にて蕃殖するものあり(?)  
可成多し。

春秋二期に出現す。

當地にて蕃殖す。

少し。

同 上

同 上

同 上

餘り多かず。

大正九年の秋期には只五羽位より出現せず。  
餘り多からず、味極めて良好なり。

可成多し。



鳩 鴿 科	海 雀 科
シロカモメ オホセグロカモメ フシカモメ エリカモメ ウミネコ ズグロカモメ トウゾクカモメ コアザサシ ウトウ ウミアウム ケイマフリ シラヒゲウミスズメ ウミスズメ コウミスズメ マダラウミスズメ カムムリウミスズメ エトロフウミスズメ ドバト(家禽) アチバト キジバト	シロカモメ オホセグロカモメ フシカモメ エリカモメ ウミネコ ズグロカモメ トウゾクカモメ コアザサシ ウトウ ウミアウム ケイマフリ シラヒゲウミスズメ ウミスズメ コウミスズメ マダラウミスズメ カムムリウミスズメ エトロフウミスズメ ドバト(家禽) アチバト キジバト ヤマハト
ヤマハト マチドリ、マチ シラバト、クラハ ト、ハト	ゴメ タラゴメ ゴメ ゴメ ゴメ、スキラ ゴメ タラゴメ ハナドリ(鼻鳥)
ヤマハト マチドリ、マゴ ハト	ゴメ ゴメ ゴメ ゴメ、スキラ

餘り多からず  
 冬季鱈漁期の頃最も多く出現す。  
 同 上  
 冬季より四月中出現するが如し。  
 三戸郡蕪島は有名なる營巢の根據地なり、其他  
 諸所の海濱なる無人島に多く棲息す。  
 餘り多からず。  
 冬季多く出現す。  
 極めて少数なり。  
 寒流を追ふて棲息するが如し。嘴上突起は年  
 中存するものもあり。  
 餘り多からず。  
 寒流に漂ふものの如し。  
 極めて少数なり。  
 分布は年により差あり大正九年の如きは極め  
 て少かりき。  
 前者より遙少数なり。  
 餘り多からざるが如し。  
 極めて少数なり。  
 極めて少数なり。  
 近時著しく増殖したるため農家の被害多大な  
 り、されど蝸牛、田螺等の幼仔を喰するを以て  
 衛生上考慮する點あるべし。  
 深山に多く鳴聲人の小兒に似たるを以て之を  
 神鳥とし此の影を見たるものは死すとの迷信  
 あり、營巢す。  
 可成多く雛を捕へて養はんとす、ために狩獵  
 法に觸るる者年々尠しとせず。





啄木鳥科

アカゲラ

クラツツキ

キツツキ

雲雀科

コゲラ

ケラ

クラツツキ

鶺鴒科

アサギ

ケラツツキ

クラツツキ

鶺鴒科

ヒバリ

ヒバリ

ヒバリ

鶺鴒科

キセキレイ

チンチントリ、イシタタキ、セキレイ

セキレイ

鶺鴒科

ツメナガセキレイ

セキレイ、チンチントリ

セキレイ

鶺鴒科

セグロセキレイ

ナハシロヒバリ、セキレイ、ナシロシゲ

セキレイ

鶺鴒科

ピンズキ

セキレイ

セキレイ

鶺鴒科

タヒバリ

セキレイ

セキレイ

鶺鴒科

ハクセキレイ

セキレイ

セキレイ

鶺鴒科

ヒヨドリ

テウマン、ヒヨ

ヒヨ、テウマン

鶺鴒科

サンクワウテウ

サンジヤク

ウシボイ

鶺鴒科

サメビタキ

ヒタキ

ヒタキ

鶺鴒科

コサメビタキ

ヒタキ

ヒタキ

鶺鴒科

キビタキ

ヒタキ

ヒタキ

鶺鴒科

ムギマキ

ルリ、アチウマ、ロ

ルリ

鶺鴒科

オホルリ

ルリ、アチウマ、ロ

ルリ

可成多く夏季雛を捕りて養ふ者あり、北海道とは不規則なる渡りをなすが如し。近時著しく少数となれる傾向あり。可成多し。少数なり。

頗る多く春彼岸頃渡來し晩秋去る、又少数は越冬するものあり。近時人里に來るもの少数となれり。

近時極めて少数となれり。年中棲息し春苗代に下りて農家に嫌はる。

可成多きが如し(昨春は特に多かりき)。餘り多からず。年中居るが如し。

少数は越年して蕃殖す。諸所の森林に多しと雖も三戸郡名久比岳には殊に多く産す。又時に屋内に入り來ることあり。餘り多からず。

極めて多く分布し時に二十以上の群をなすとあり。南部地方に多し。

同上。當地にて蕃殖す。





鶉科

ハシブトガラス

ハシボソガラス

ミヤマガラス

コクマルガラス

ホシガラス

カケス

ミヤマカケス

チナガ

ムクドリ

コムクドリ

メジロ

キバシリ

シカメ

イカル

リクセンイカル(コイカル)

イスカ

シロハライスカ

ナキイスカ

オホマシコ

ベニマシコ

ハギマシコ

クチブト、カラス

クチボソ、カラス

ヤマガラス、ダゲカラス

ブチカラス

シロカラス、ブチカラス

カゲス

松前カケス

オナガ

サクラドリ

サクラ、メジロ

メジロ

三光

三光

イスカ

イスカ

ケラツツキ、イスカ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

カゲス

カケス

オナガ

サクラドリ

サクラ

メジロ

三光

三光

イスカ

イスカ

ハジロ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

マシコ

頗る多し。冬季と雖も水浴す。

同 上

餘り多からず。

稀なり。

少數なり。

頗る多し。

八甲山麓にて觀察することを得可成多し。

渡鳥中最も多く分布し七月上旬頃より十月頃迄は數百の群をなして飛翔し實に壯觀を極む。

前者より遙少數なり。

極めて多く分布す。

少數なり。

餘り多からず、樹芽を害す。

頗る多く捕へて養ふ者多し。

少數なり。

當地にて蕃殖す、昨年六月十二日上北郡野邊地附近にて十數羽の群を觀たり。

少數なり。

春季イスカの群に混來す。上北郡三澤附近殊に多し。

南部方面には多し。

南部方面に多く飼養せらる。

少數なれども飼養する者あり。

ア ト リ

マ ヒ ワ

ベ ニ ヒ ワ

シロハラベニヒワ(?)

カハラヒワ

ベニバラウソ

ウソ

(所謂アカウソ)

スズメ

ニウナイスズメ

ホホアカ

ホホシロ

コホホアカ

ミヤマホホシロ

アチシ

クロシ

カシラダカ

ユツユリン

オホジュリン

ノシ

ツメナガホホシロ

アハカシノシノヘン

ヒワ

オタネヒワ、シトド

ソウテル、アカリノ

ブンマハシ、キリ

マハシ

カンテル、ウソコ

スズメ

ハ雀、サクラスズ

メ、クダリスズメ

四十九日の餅搗子

ヤマスズメ、ウヅ

ラヒバリ

シトド、四十九日

の餅搗子

シトド、ヒワ

マンハヘメ

ヒワ

ケロロ、シトド

カテ、イ

ウソ

ウソ

ウソ

スズメ

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

シトド

大群を成して出現す。

毛色により柳ヒワ、青ヒワ、白ヒワ、クロヒワ、動作により玉ヒワ、羽フリヒワ等の名を附す。

大群を成すことあり。

餘り多からず。

頗る多く農家の被る害多大なるものなり。

極めて稀に出現するのみ。

喉部の羽毛白色なるあり。

頗る多し。

農家の害を被ること大なり。

餘り多からず被害の度極少なり。

各所に多く分布す。

同 上

極めて少数なり。

同 上

極めて少数なり。

同 上

稍多く分布す。

頗る少数なり。

秋季大群を見ることあり。

少数なり。

春季五、六十の大群を見ることあり。

諸山にて蕃殖す。

極めて少数なり。

クロスズメ

上表により青森縣には約三百六十種の鳥類産することを知りたれども、未だ調査に漏れたるものも尠からざるを以て他日其缺を補ふの日あるを信ず。由來青森縣は動物地理學上總北區舊北亞區中支那地方の北方に位置し、津輕海峽を以て舊北亞區中なる歐亞地方と相界せり、而して上記兩地方の分界線たる津輕海峽假想線はブラキストン線と稱せられ、兩區の鳥類分布に著しき差異ありと雖も、鳥類の生存上該線附近に漂ふものも尠しとせず、又寒流暖流の分布上是等に適應して棲息するものも稀ならず、是青森縣鳥界に稍特色を發揮する所以なり。されど青森縣産特有鳥とも稱し得べきものを未だ認めざるは遺憾とする所なり。此缺は他日を期して探險を行ひ是非共學界に未知なる鳥類の數點を發見せんと欲す。(完)